

# 白鷹町の決算概要報告



## 一般会計

歳入

107億7,189万円

歳出

98億7,705万円

一般会計の歳入決算額（税金など町へ入ってきたお金）は107億7,189万円で前年度に比べ6,806万円（0.6%）増、歳出決算額（町が使ったお金）は98億7,705万円で前年度に比べ、2億1,329万円（2.2%）増となりました。歳入歳出差引は8億9,484万円、翌年度へ繰り越した事業に充てるべき財源を控除した実質収支は8億490万円となりました。

¥

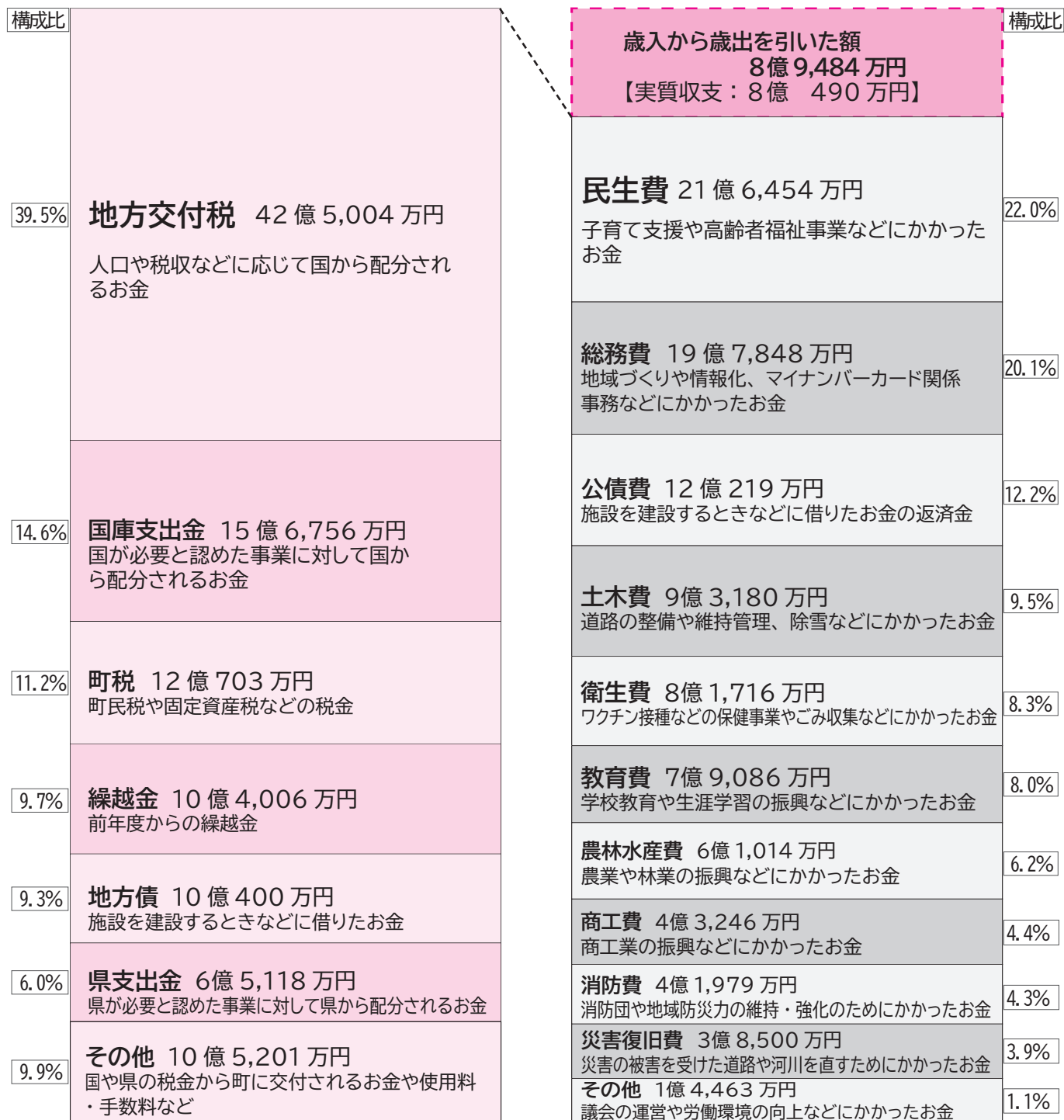
## グラフで見る一般会計（歳入・歳出）

歳入決算額 107億7,189万円

前年度比 6,806万円増（0.6%増）

歳出決算額 98億7,705万円

前年度比 2億1,329万円増（2.2%増）



※地方財政状況調査による区分により集計しています。

※項目ごとに四捨五入しているため合計などが一致しないところがあります。

令和4年度は、このように  
お金が使われました！



歳出を町民一人あたりでみると

総額 78万486円 (前年比3万2,691円増)

※町民一人あたりの金額は、令和5年3月31日現在の町の住民基本台帳人口1万2,655人で割ったものです。

**民生費** 使われたお金…21億6,454万円

町独自策による全年齢保育料完全無償化、副食費無料化を実施し、子育て環境の充実に取り組みました。また、第2期健康と福祉の里構想に基づき、町立病院及び健康福祉センターの長寿命化及び機能拡充に向けた基本設計に着手しました。障がい者福祉事業として、児童発達支援センターを整備する社会福祉法人への支援などを行いました。



児童発達支援センターにこっと外観

**総務費** 使われたお金…19億7,848万円

地区コミュニティセンターを核とした地域づくりの支援や、地域拠点の一つである鷹山地区拠点施設の整備を行いました。デマンドタクシーの町外延伸便では、新たに長井市の商業施設を経由地に追加し利便性の向上を図りました。また、行政のデジタル化に向け、町民課窓口での来庁者の負担軽減を図るためマイナンバーカードを利用した申請支援システムの構築を行いました。



鷹山地区拠点施設外観

**公債費** 使われたお金…12億219万円

建設事業などを行うために借り入れたお金の返済を行いました。

**土木費** 使われたお金…9億3,180万円

町道や橋梁の長寿命化工事や河川の堆積土砂の撤去など重要インフラの安全確保を行うとともに、定住促進・転出抑制対策として、子育て支援住宅及び若者定住促進住宅の整備に向けた基本設計等を行いました。

**衛生費** 使われたお金…8億1,716万円

新型コロナウイルスワクチン接種の実施や、健康寿命の延伸のため健康診査の受診率向上へ取り組みました。母子保健事業において産後ケア事業の充実に加え、妊娠期からの伴走型相談支援と給付金交付を実施しました。また、地球温暖化防止の取組として、新たに蓄電池設備の設置に対する助成を実施しました。



**教育費** 使われたお金…7億9,086万円

ICT支援員の配置による授業支援などデジタル学習環境の充実を図ったほか、老朽化した学校施設の改修等を行いました。また、荒砥高校支援として、高校魅力化コーディネーターの配置により小規模校ならではの魅力づくりを進め、令和5年度の入学者数は40名となりました。



**農林水産業費** 使われたお金…6億1,014万円

長引く新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢による燃料等の生産資材の高騰の影響を受け、生産資材の購入支援を実施したほか、農家所得の向上を目的とした産地づくりの推進や、有害鳥獣被害対策として電気柵等の設置支援に取り組みました。また、森林再生・林業支援として伐って、使って、植える、育てるの「緑の循環システム」の実践に取り組みました。

**商工費** 使われたお金…4億3,246万円

物価高や燃料費・電気料金の高騰を受け、全町民に対する地域応援券の配布や、事業者向け原価価格等高騰対策支援給付金の支給など、住民生活支援と事業者支援の両面で支援を行いました。また、観光分野では、コロナ禍に縮小していた各種イベントを通常に近い形で開催するとともに紅花生産支援等を継続して行いました。



**消防費** 使われたお金…4億1,979万円

消防団員装備の充実を図ったほか、自主防災組織が行う防災訓練等に対する支援を行うなど、地域防災力の一層の充実・強化に取り組みました。



**災害復旧費** 使われたお金…3億8,500万円

令和4年8月豪雨災害により被災した農業用施設などの復旧事業を行いました。

**その他** 使われたお金…1億4,463万円

企業における従業員の正社員化に向けた支援を行ったほか、議会運営に必要な経費を支出しました。



## 特別会計と公営企業会計

特別会計			
会計名	歳入	歳出	差引
十王財産区	357万円	44万円	314万円
下水道	4億4,999万円	4億3,177万円	1,822万円
国民健康保険	15億6,968万円	15億4,675万円	2,293万円
農業集落排水	1億6,097万円	1億5,414万円	683万円
介護保険	16億9,609万円	16億2,248万円	7,361万円
後期高齢者医療	1億6,986万円	1億6,715万円	271万円

公営企業会計			
事業名	歳入	歳出	差引
水道事業(収益的収支)	3億2,250万円	2億9,113万円	3,137万円
水道事業(資本的収支)	4,459万円	1億5,437万円	▲1億978万円
病院事業(収益的収支)	12億1,024万円	12億428万円	596万円
病院事業(資本的収支)	4,905万円	1億3,433万円	▲8,528万円

※万円未満端数調整

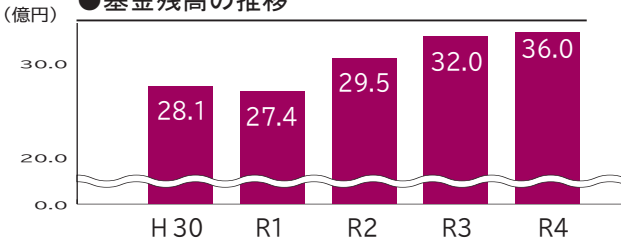
# 財政状況について

### 積立基金の残高

基金とは、貯金にあたるものです。大規模な災害等に備えて積み立てる財政調整基金や公共施設の整備等へ活用するために備えた公共施設整備基金、ふるさと納税制度を利用し、町へ寄附をいただいたお金を積み立てたふるさと応援基金などがあります。

令和4年度基金残高	35億9,832万円
財政調整基金	10億4,661万円
減債基金	9億797万円
公共施設整備基金	8億702万円
福祉振興基金	1億2,628万円
ふるさと応援基金	3,872万円
その他の基金	6億7,172万円

●基金残高の推移

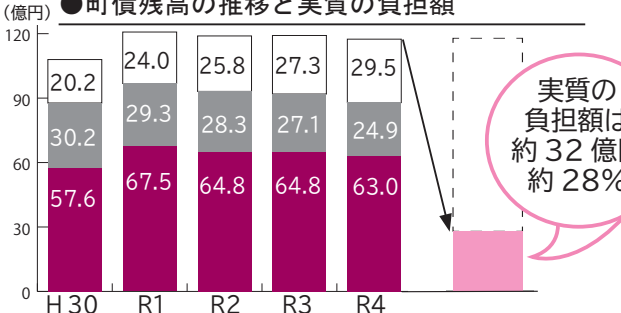


### 町債残高の推移と実質の負担額

町債とは町の借金のことで、令和4年度末の町債残高は117億4,519万円となりました。借金の返済金に対して地方交付税により国から配分される収入を差し引いた実質の負担額は約32億円(約28%)となりました。

令和4年度町債残高	117億4,519万円
過疎対策債	63億256万円
臨時財政対策債	24億8,843万円
その他町債	29億5,420万円

●町債残高の推移と実質の負担額



### 健全化判断比率の4つの指標は良好

自治体の財政状況を判断する「健全化判断比率」は全て早期健全化基準を下回っており良好な状態です。引き続き健全な財政運営に取り組んでまいります。

指標	白鷹町	早期健全化基準(※)
実質赤字比率 一般会計を中心とした赤字の割合	赤字なし	14.89%
連結実質赤字比率 一般会計、特別会計、公営企業会計を合わせた赤字の割合	赤字なし	19.89%
実質公債費比率 年間の借金返済額の割合	10.7%	25.0%
将来負担比率 将来負担となる借金の割合	31.8%	350.0%

(※)この数値を上回ると健全化への取組が必要になります。

### 公営企業における資金不足比率はなし

水道、町立病院、下水道、農業集落排水の全会計について、資金不足比率は発生していないため比率はありません。

■ 過疎債  
■ 臨時財政対策債  
■ 実質負担見込額  
□ その他町債

※過疎対策事業債：過疎地域に指定された団体が発行できる地方債。返済金の7割が地方交付税により措置される。  
※臨時財政対策債：国の財源不足を補うための地方債。返済金の全額が地方交付税により措置される。